

精神疾患とその治療

問題 1 精神医学に貢献した人物に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 野口英世は、進行麻痺^{まひ}の解明に貢献した。
- 2 森田正馬は、司法精神医学の発展に貢献した。
- 3 呉秀三は、電気けいれん療法の普及に貢献した。
- 4 クレペリン(Kraepelin, E.)は、精神分析療法を創始した。
- 5 シュナイダー(Schneider, K.)は、精神障害者の処遇改善に貢献した。

問題 2 脳の部位とその損傷による症状に関する次の組み合わせのうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 前頭葉 —— 抑制が欠如して反社会的な行為を行う。
- 2 側頭葉 —— 計画を立て行動することができなくなる。
- 3 頭頂葉 —— 自発性が低下して周囲に無関心になる。
- 4 後頭葉 —— 運動麻痺^{まひ}がないのに目的の動作ができなくなる。
- 5 小脳 —— 手が震え、四肢の筋が硬直する。

問題 3 修正型電気けいれん療法に関する次の記述のうち、正しいものを2つ選びなさい。

- 1 直前に十分量の水分を摂取させる。
- 2 精神疾患に限られた療法である。
- 3 局所麻酔下で行う。
- 4 副作用として健忘がみられることがある。
- 5 けいれんを認めなくても効果がある。

問題 4 次のうち、ICD-10(国際疾病分類第10版)で「F4. 神経症性障害, ストレス関連障害及び身体表現性障害」に分類されるものとして、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 一過性全健忘
- 2 気分変調症
- 3 ガンザー症候群
- 4 レット症候群
- 5 トウレット症候群

問題 5 アルコール関連障害及びアルコール依存症に関する次の記述のうち、正しいものを2つ選びなさい。

- 1 病的酩酊^{めいてい}は、断酒後に起こる。
- 2 コルサコフ症候群では、作話を認める。
- 3 母親の大量飲酒によって、胎児性アルコール症候群が起こり得る。
- 4 ウェルニッケ脳症では、両下肢の麻痺^{まひ}を認める。
- 5 アルコールの離脱症状の治療で必要なのは、ビタミンAの投与である。

問題 6 次の記述のうち、精神症状の分類として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 幻聴は、思考の障害に分類される。
- 2 妄想は、知能の障害に分類される。
- 3 不安は、知覚の障害に分類される。
- 4 せん妄は、意識の障害に分類される。
- 5 作為(させられ)体験は、意欲の障害に分類される。

問題 7 初診時の精神科面接に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 まず病歴，それから主訴を聴取する。
- 2 原則として，家族，患者の順で面接を行う。
- 3 患者にわからないように面接を録音しておく。
- 4 症状を専門用語で要約するよりも，具体的内容を記述する。
- 5 開かれた質問を用いず，閉じられた質問で面接する。

問題 8 検査の種類と検査名に関する次の組み合わせのうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 知能検査 ————— C M I
- 2 性格(パーソナリティ)検査 ——— S C T
- 3 作業能力検査 ————— M M P I
- 4 気分の検査 ————— W A I S
- 5 認知症のスクリーニング検査 ——— T A T

問題 9 次のうち、副作用として「手足の震え、小刻み歩行、無表情な顔貌」が、^{がんぼう}そ
ろって出現する可能性が最も高い薬物として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 抗精神病薬
- 2 抗不安薬
- 3 気分安定薬
- 4 睡眠薬
- 5 選択的セロトニン再取り込み阻害薬(S S R I)

問題 10 精神療法と関係の深い概念に関する次の組み合わせのうち、正しいものを

1つ選びなさい。

- 1 家族療法 ————— 絶対臥褥^{がじょく}
- 2 支持的^{しじてき}精神療法 ——— 洞察
- 3 森田療法 ————— システム論
- 4 認知行動療法 ——— コーピング
- 5 自由連想法 ————— オペラント条件づけ